平成２１年度文部科学省委託事業　青少年体験活動総合プラン

おおずふれあいスクール

出逢い・挑戦・感動によるひとり立ちをめざし、自分の進む道を自分で決めることができるようになりました。

１．事業実施までの経緯

「おおずふれあいスクール」は開設以来、１３年を経た。その間に、多くの不登校で悩む子どもたちの心に寄り添い、その心の居場所を提供すると共に、子どもたちの自立を支援し、その進路決定の援助をしてきた。さらに、平成１３年からは、対象者の枠を広げ、青年の社会的自立を支援する取組を進めてきた。

現在、不登校児童・生徒及びひきこもりがちな青年は、大洲市や大洲市近隣にも多く、「おおずふれあいスクール」はなくてはならない存在となっている。この取組についての広報活動の在り方など、まだまだ課題はあるが、様々なプログラムを開発し、関係諸機関との連携のもと、より効果的な取組をめざしている。

２．ね ら い

不登校生徒及びひきこもりがちな青少年に、居場所を提供し、国立大洲青少年交流の家のフィールド、人材、設備などを活用しての自然体験活動や社会体験活動をとおして、自立を促し社会への適応能力の向上を図る。

３．主　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家

４．共　　催　大洲市教育委員会、八幡浜保健所

５．後　　援　愛媛県教育委員会

６．期　　日　平成２１年７月１日（水）～平成２２年３月１０日（水）

７．場　　所　国立大洲青少年交流の家他近くの所外

８．募集人員　愛媛県内及びその近隣地域において心理的・情緒的理由による不登校児童・生徒及びひきこもりがちな青年（２２歳程度まで）１５名程度

９．支 援 者　大洲市教育委員会職員２名、国立大洲青少年交流の家職員3名

10. 日　　程

9:30	12:00	13:30	15:30
自主活動等	昼食	社会体験活動 自然体験活動 創作活動 レクリエーション活動	

※日程は一つの目安です。

11. 活　　動

○　自らがプログラムを選択し、活動する。その活動に応じて支援者が対応する。

○　社会体験活動（ボランティア活動、職場体験等）・自然体験活動（体験農園、野外体験等）・創作活動（陶芸、木工クラフト等）・レクリエーション活動（ゲーム、スポーツ等）を中心に行う。

※　月曜日から木曜日まで、いつでも来所できる。

※　ボランティア活動などをとおして、社会的自立に向けた支援を行う。

12. 支援体制

○　実行委員会、専門委員会を組織し、活動支援を行う。

小中高教員４名、臨床心理士１名、愛媛県教育委員会１名、スクールカウンセラー１名、八幡浜保健所１名、えひめ若者サポートステーション１名、ジョブカフェ愛ワーク１名、計１０名でおおずふれあいスクール実行委員会を構成した。

また、１２名の大洲市内小中学校教員によって専門委員会を組織し、３名グループに分かれ、月に２回程度スクール生の活動を直接支援した。

○「親の会、思春期親の会」で保護者同士の連携を図る。

○　関連事業として、専門家による講演会や研修会を開催する。

13. 活動内容

地域との連携や本所の人的・物的資源の特長を活かし、社会参加を進めている。中でも職場体験活動やボランティア活動への積極的な関わりを重視している。

活動プログラムについては、時間設定などの大枠だけをつくり、具体的な活動は青少年の意欲・意思を最大限尊重し、のびのびと活動し居場所が実感できるよう配慮している。

また、多くの活動を企画し、興味と関心に応じて自らが選択できるようにしている。

以下７つの活動で支援している。

①　自主活動　　②　生活体験活動　　③　自然体験活動　　④　ボランティア活動

⑤　職場体験活動　　⑥　文化活動　　⑦　スポーツ活動

主な活動の様子

①「農園作業」と収穫祭

たまねぎの収穫

収穫祭の調理

年間を通して、大洲市の体験農園を利用して、野菜づくりを行った。種まきからはじまり、除草、手入れと心を込めて栽培した。秋には収穫祭で、収穫した野菜を使って料理をした。野菜の収穫の感動と植物を育てる大変さを感じた農園作業であった。

②フェスティバルでの紙クラフト

紙クラフト風景

毎年、秋の青少年交流の家フェスティバルの時には、ボランティア活動としてクラフトを行う。今年は、紙クラフトを行った。細かな作業も必要なところもあり、スクール生は、子どもたちに適確なアドバイスをおくっていた。ものづくりはひとづくり。そんな気がした。

③「いきいき野外体験　ｉｎ三瓶」（11月１３～１５日）

埋没林見学

地下の埋没林へ

夜のコミュニケーション

島根アクアス見学

今年のいきいき野外体験は島根県三瓶で実施した。埋没林公園での見学では、自然の偉大さと神秘に参加者は感動していた。宿泊体験での人とのふれあい、自然とのふれあいで、参加者の目はかがやき、何かをつかんでくれたようであった。

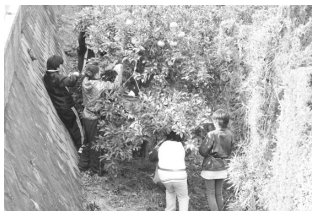
④「エンジョイコミュニケーション」

絵本を使って！

４コマの紹介画づくり

講師に二宮美奈氏を招いてエンジョイコミュニケーションを行った。スクール生もスクールに通う中で、気持ちもほぐれ、人との会話やコミュニケーションも自然な感じになってきた。さらに、楽しい雰囲気をつくったり、自分の意見や思いを言ったりするのができるようになることを期待して、このコミュニケションを行った。アイスブレイク・自己紹介からはじまり、リラックスしたコミュニケーション、そして、絵本を使ってのコミュニケーションと心なごむひとときであった。自己開示することの意味や人の長所をみつけることの大切さなどが体に入っていった。

⑤「佐田岬ワークキャンプ（みかん収穫）」



サンフルーツの収穫

倉庫での作業

交流会

２月１６日から１８日の２泊３日の日程で、佐田岬の伊方町平磯にて佐田岬ワークキャンプを実施した。スクール生８名の参加でみかん収穫の職場体験を行った。みかん収穫作業や倉庫での出荷準備作業を行った。海外や日本各地からのボランティアの方との交流会もあり、スクール生にとっては良い経験と思い出となった。

⑥「自己発見ワークショップ」

ゆるゆるストレッチ

ベアーズカードを使って！

ジョブカフェ愛ワークの大内由美氏と浅野環氏を講師に招いて、ワークショップを実施した。心と体をほぐすゆるゆるストレッチから始まり、ベアーズカードを使った自己紹介で、和んだ雰囲気で進んでいった。最後にワクワクの木を使って、自分がワクワクする時の発表を行った。自分を改めて知り、自己発見の楽しいワークショップとなった。

14. 参加者の声

（スクール生の声）☆一年を振り返って☆

・ほぼ毎日スクールに来られたことが良かった。がんばった。
・三瓶に行ったことが楽しかった。
・三瓶で、みんなで寝る前にいろいろ話したことと、温泉が楽しかった。
・書ききれないほどたくさんの思い出ができた。
・楽しいこともしんどいこともあったけれど、充実した一年だった。
・茶道教室で初めてお茶を点てて飲んだ。とても奥が深くて、覚えることがたくさんあって難しいと思った。先生は大変だと、改めて感心した。
・周りの人に対して優しくなれた。人を受け入れられるようになった。
・たくさんの行事でみんなと過ごせたことが楽しかった。充実した生活だった。
・プラス思考になれた。笑う回数が増え、みんなと話していると楽しい気持ちになれた。
・友達って、一緒にいたら楽しいものだと初めて思った。嬉しかった。
・スクールに来ると、本当に楽しくてみんなから元気をもらえる。生活習慣を整えるためにもできるだけ通所したい。
・いろんなことがあって、してはいけないことと良いことについて考えた。繰り返さないと思う。
・最初のころよりスクールに来られるようになったので良かった。この調子で学校に行ければ良いと思う。
・前よりはがんばれていると思う。けど、勉強はできていない。
・前の自分は怠け過ぎていたと思う。少しずつがんばりたい。
・学校にがんばって行けたことがすごく嬉しかった。でも、休まずに行くって事はすごくしんどいと改めて思った。
・前は自分に甘えていた心があったけど、今は前より少し厳しくできていると思う。
・スクールは変わらず楽しく、良い場所だと思う。
・最初はたくさんの人の中で意見を言ったり、一緒に過ごすことが苦手だったけれど、今ではみんなでいろんなことをするのが一番楽しいと思う。
・みんなは、気を使いすぎないでいられる、友達だけど兄弟みたいな大切な存在。
・職場体験をさせていただいて、まだ仕事に対して不安があるけど、少しその大変さとか楽しさがわかった気がする。
・来年度はもっと成長できるようにがんばりたい。

15. 成　　果

日々の学習活動やスポーツ活動を中心にスクール生はいきいきと活動していくようになった。金曜日のチャレンジデーやその他の日でも学校に登校する日も少しずつ増えてきた。

２１年度復帰状況	小学生		中　1		中　2		中　3		高　1		高　2		高　3		青　年		総　計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
登録者数			1	3	4	4	1	1	1	1						3	7	12
復　　帰				1	1	2	1	1		1							2	5
ほぼ復帰				2	1	1											1	3
小　　計				3	2	3	1	1		1							3	8
毎日通所			1		2				1							2	4	2
通所なし						1										1		2
小　　計			1		2	1			1							3	4	4
総　　計			1	3	4	4	1	1	1	1						3	7	12

また、スクールの中での人とのふれあいを通して、スクール生は人間的に大きく成長した。さまざまな体験活動を通して、前向きな姿勢やチャレンジ精神も身につけたように思える。青年のスクール生はこれからの生き方を見つけだそうと努力している。

親の会は、保護者が本音で語り合い、とても意味のある活動である。これからも継続が望まれる。

『資料：実行委員・専門委員アンケート集計　部分抜粋』

（ねらい）　不登校生徒と及びひきこもりがちな青年に、居場所を提供する。また国立大洲青少年交流の家のフィールド、人材、設備等を提供し、自然体験活動や社会体験活動をとおして、自立を促し社会への適応能力の向上を図る。

（１）　この事業のねらいは適切でしたか。

４　適切だった（１１名）　　３　どちらかというと適切だった

２　どちらかというと適切ではなかった　　１　適切ではなかった

理由：・不登校生の居場所となっており、様々な体験活動を通して、社会性を身につけ、それが学校復帰につながっていると思う。

・（自然）体験活動の積み重ねの中で、自立に向けての意欲や（生きる）力が育まれてきていると思うので。

（２）　ねらいは達成できたと思いますか。

４　達成できた（５名）　　３　どちらかというと達成できた（５名）

２　どちらかというと達成できなかった　　１　達成できなかった

理由：・ふれあいスクールという集団の中で仲間と共に活動する中で、社会性を身に付け、それが自立へとつながっていると思う。

・ふれ合うという点では達成できたと思うが、学校復帰という点では不十分。（カウンセリング的なこともしなければ行けないのかと思うときがある。）

・環境に恵まれた施設なので、居場所の提供はもとより、様々な自然体験活動や社会体験活動に参加することで家に引きこもっているよりは豊かな経験ができ、様々なことを学ぶ機会となっていると思う。

（３）　その他、何でも気づいたことをお書きください。

・今年度は元気なスクール生が多く、一緒にスポーツを楽しむことで会話もはずみ、とてもよい交流活動ができました。

・ふれあいスクールは学校へ行けない子にとっての大切な居場所であり、大洲にとってなくてはならない存在になっていると思います。今後ともよろしくお願いします。

・活動報告で皆さまのご熱心な取組について伺っており、頭の下がる思いでおります。
子どもたちにとって、大変意義がある事業だと思います。

・青年と、小中学生を分けた方がいいと思うことがありました。（高校生含）いい面と悪い面があるのでどちらがいいかはわかりませんが。

16. 課　　題

今年は、スクール登録生１８名と過去最多となった。小中学生から青年までとスクール生の年齢幅が広いので、先輩後輩の関係など良い面もあるが、一緒のルームでの活動に工夫も必要であった。毎日の学習活動のあり方等これからの課題である。

また、ふれあいスクールでは、毎日の（月から木曜日）学習活動や生活活動が基本であるので、さらにその充実を図っていくことが大切である。